

会長挨拶

Jネット会長

和久井博（幸町出身）

みなさんこんにちは。本日は、多忙の中を、平成十八年度ふるさと上越ネットワーク総会にお集まりいただきありがとうございます。開会に際し、一言ご挨拶をさせていただきます。

ふるさと上越ネットワークは、平成九年に設立しまして、ちょうど今年で十年目になります。この十年間会員の皆様のご協力の下に、色々な事業や企画をやってまいりました。「ふるさと交流会」でお花見に行ったり、あるいは「文化講演会」で、先日は、金井清一プロのお話を聞いた。「越後ふるさと大使」のほうも、かなりの方に名刺を持っていただいて、あちこちでPRしていたと思います。

去年から新たに「ふるさと市場」ということで、地元の良質な物産を出来るだけ世の中に広めようと新たな事業も始めております。

それ以外にも、上越市に対してJネットからいろいろな協力をしております。例えば、都会で培ったノウハウを上越の市政に生かそうということ、今年度からは行革担当では松川副会長

が、直江津港の振興では、長年日通におられたロジスティックスのベテランの井手理事が、新たにコーディネーターとして入っています。それから上越市食糧・農業・農村基本計画策定委員会というのがあるんですが、従前は松川副会長と理事の澤さんが参画されていまして。昨年からは澤さんに代わりまして小野塚さんから参加いただいております。それと私も委員のほうに昨年から入っています。もちろん行革は大事なことで、松川さんが民間の会社で培ったノウハウを、是非上越にうまく導入してもらえればいいかなと思います。

それから直江津港についてですが、ここに

る皆様に日本の最重要貿易国はどこですかと聞いたら、多分今の高校生でもそう答えると思うんですが、アメリカとかEUだとか返ってくると思うんです。それが驚くことに去年の十月、日本の最大の貿易相手は中国になりましたよね。アメリカも中国が最大です。ですから津軽海峡から日本海に向ってアメリカの貨物船が列をなしているという話を聞きます。そこで、直江津港にとつて千載一遇のチャンスが来るのではないのかと思うわけです。そういう背景とロジのベテランである井手さんがいろいろアドバイスしてくれるということで直江津港は、すごく期待できるのではないかと思います。

農業のほうも委員会に参加して三年目になります。WTOが米の関税を下げると言ってきておりますから上越の農業も非常に大変な課題を抱えているわけです。我々都会の生活者としての意見をいろいろ言わせていただいておりますが、今年は農業の具体的なアクションプランの中で私が今言われているのは、上越米を中心とした上越の食糧のブランドを作れと、ブランドを作るプロジェクトに参画してくれといわれています。これは私一人で考えてもどうしようもないので、是非J



ネットの皆様のご知恵とかアイデアをまとめて何とか上越のブランドを育成したいなと思っております。

ブランドにつきましては、この前、上越市長と新潟県知事がパネルディスカッションで聞いた面白い話がありまして、中越地震の時、山古志村というのは、非常に孤立しまして日本国中の新聞やマスコミに出て全国ブランドになりました。ただどあれより被害があったんじゃないかと思われる小千谷の東山地域は、多分全国で誰も知らないんじゃないかと思えます。

「平成十八年豪雪」では、上越市はじめ皆さん大変ご苦労なされたわけですけれど、秋山郷に繋がる津南町は全国紙にたびたび報道されました。だから津南はブランドになったわけですね。ですけど津南より多分雪が多かった関山とか、関山の先の赤川なんてのはどこにも出てないわけなんですよ。だからブランドになるには、日本一にならないといけない。あるいは世界一にならないとブランドにならない。これは大変なことなんだなという風に思っています。是非皆さんと一緒に日本一の上越の何とかっていうのを見つけて出すのか、作り出すのか、何かそういうことをやっていかなくてはいけないのかなと思っております。

本日は、一年に一回の総会・懇親会でありませう。上越の方から沢山食べ物やお酒が届いてい

ると思えますので、是非今日はゆっくり皆さん楽しんでいただければと思っております。

最後になりますが、ここにお集まりの皆さまのますますのご発展とご健勝を祈念してご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございます。

